

WEBINAR FRIDAYS

X線透視検査に関するトレンドから最新テクニックを学べるウェビナーシリーズ

進化する 大腸ステンティング

FOR FREE

本ウェビナーを視聴いただくには「事前登録」が必要になります。お手数ですが、下記❶❷のいずれかの方法でお申し込みください。お申し込み後、本セッション専用の「リンク」を送付いたします。

1 Codeをスキャンする。

② URLをブラウザーに入力する。

https://www.fujifilm.com/jp/ja/healthcare/events/7392



夏**斉田芳久**先生

東邦大学医療センター - 大橋病院外科 教授



演村上敬先生

順天堂大学医学部附属 順天堂医院 消化器内科 准教授



藻 松田明久 _者

日本医科大学付属病院 消化器外科 講師



SESSION 01

より安全な大腸ステンティングを目指して

~手技の実際とコツ~

大腸狭窄に対する治療は、従来は緊急手術による人工肛門造設術が基本であった。しかし 2012年に大腸ステントが保険収載され、大腸ステントは人工肛門の回避など患者QOLの 高い治療法として注目される。大腸ステントの有効性はさまざまな論文で報告されている。一方でその偶発症として消化管穿孔が挙げられ、安全に留意した手技が必須である。本セミナーでは、大腸ステント安全手技研究会のミニガイドラインを交えながら、より安全な大腸ステンティングを目指して手技の実際やコツについて紹介する。

材上 敬

SESSION 02

腫瘍学的見地に立った安全なBTSとは?

大腸ステント留置後手術(BTS: Bridge To Surgery)の長期予後に関しては、欧米から ESCOやCReST試験結果が発表され緊急手術と同等であることが示されている。しかし、 サンプルサイズが十分でない、非閉塞例と比べて生存率が低い、術後死亡率が高いことな どの懸念事項から依然として結論付けるには時期尚早であろう。さらなるBTSの治療成績 向上のためには多面的な検証・改善が必須であり、本セミナーでは臨床・基礎両面の見地 に立った腫瘍学的に安全なBTSについてお話したい。

松田明久

NFORMATION

i

- 本ウェビナーは「無料」でご視聴いただけます。
- 本ウェビナーは「事前登録制」です。表紙にあるURLまたは2次元コードよりお申し込みください。
- 詳細については、当社のウェブサイト(表紙にあるURLまたは2次元コード)をご参照ください。
- 講演中、ご質問を随時受け付けております。 投稿者氏名は公開されませんのでチャットボックスにご投稿ください。
- 同業他社様のご視聴はご遠慮いただいております。予めご理解とご了承をお願いいたします。